

6. 本明川ダムについて

諫早市街地を洪水から守るため様々な方法の検討の結果、洪水調整や流水の正常な機能維持（渇水時の良好な河川環境の維持等）のためには、本明川ダムの建設が最も有効です。

本明川ダムは台形CSGダムという新しい工法で計画されています。

これはセメント（C）、砂（S）、礫（G）、水を加え、練り混ぜた材料を用います。

これによって通常のコンクリートダムでは破棄してきた材料も有効活用でき、製造工程も簡素化することができます。また、ダムの形を台形にすることで、安定性が増します。

一方で、ダム建設により水没する地域にお住まいの方々のご協力の上でダムの建設が可能となり、私たちの安全・安心や水の安定的な利用につながっていくことを忘れないようにしましょう。

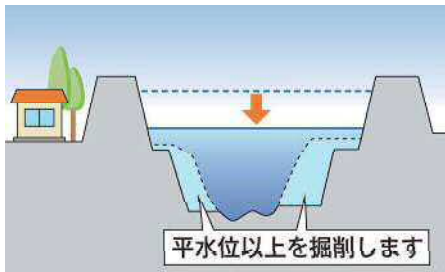
写真や図を併せてより詳細に解説しておりますので、以下のパネルをご覧ください。

ダム検証の結果

諫早市街地から下流部を洪水から守るための治水対策として様々な方法を検討した結果、本明川ダムの建設が最も適切と考えられました。

■ダム以外に考えられた主な治水対策

掘削案



川の底を掘って、流せる水の量を増やします。

放水路案



新しい流れ（放水路）を作り、増えた川の水を分けて海まで流します。

遊水地案



増えた川の水を一時的に貯め、下流にいつに流れないようにします。

検討の結果

洪水調節（洪水を安全に下流に流す）や流水の正常な機能の維持（渇水時の良好な河川環境の維持等）のためには、ダムが最も有効と考えられました。

建設コストの面から	他の方法に比べて最も少ないコストで建設が可能
建設のための時間の面から	最も短い時間で安全な本明川にすることができます
建設に関わる社会的な影響の面から	地域社会や環境への影響が最も少ない



諫早市街地は、本明川の両側に建物が貼り付いている箇所が多いため、ダム以外の方法では、建設のためのコストや時間が増えます。

本明川ダム建設事業のあゆみ

■諫早大水害以降の本明川ダム建設事業に関わるこれまでの経緯

昭和32年 7月	諫早大水害（死者・行方不明者630人） ※森山町、高来町、小長井町を含めた 現諫早市での人数
昭和33年	本明川が国の管理となる
昭和58年 4月	本明川ダム予備調査に着手
平成 2年 4月	本明川ダム実施計画調査に着手
平成 3年	工事実施基本計画改定（裏山 1,070 m ³ /s）
平成 6年 4月	本明川ダム建設事業に着手
平成12年 12月	「本明川水系河川整備基本方針」の策定
平成17年 3月	「本明川水系河川整備計画」の策定
平成21年 12月	検証の対象とするダム事業に選定
平成25年 8月	新規利水を除き事業継続の決定
平成26年 5月	長崎県条例に基づく環境影響評価書の公告及び縦覧
平成26年 7月	用地調査等に着手
平成29年 2月	損失補償基準協定書調印
平成30年 2月	本明川ダム関連付替道路着工式の開催

■「本明川ダム建設事業に伴う 損失補償基準協定書調印式」 の様子（平成29年2月19日）

損失補償基準協定書に署名・捺印し、調印後に握手を交わす（写真左から）諫早市長、協議会会長、九州地方整備局長、長崎県知事



■「本明川ダム関連付替道路着工式」 の様子（平成30年2月25日）

付替道路の早期完成と工事の安全を願い鍬入れを行う（写真左から）九州地方整備局河川部長、長崎県土木部長、諫早市長、協議会会長、協議会副会長、長崎河川国道事務所長

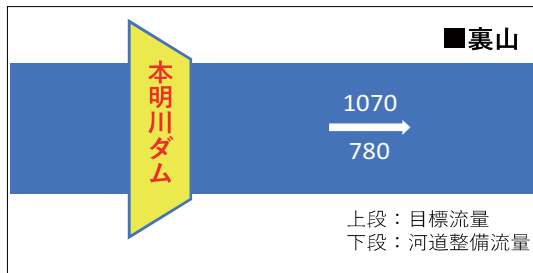


本明川ダムは、本明川をより安全・安心で、豊かな流れとするために作られます。

本明川ダムの目的：①洪水調節 ②流水の正常な機能の維持

① 洪水調節

基準地点裏山において、河川整備の目標流量（諫早大水害相当） $1,070\text{m}^3/\text{s}$ に対して、本明川ダムの洪水調節により $290\text{m}^3/\text{s}$ の流量を低減し、河川整備流量である $780\text{m}^3/\text{s}$ が流下できるようにします。

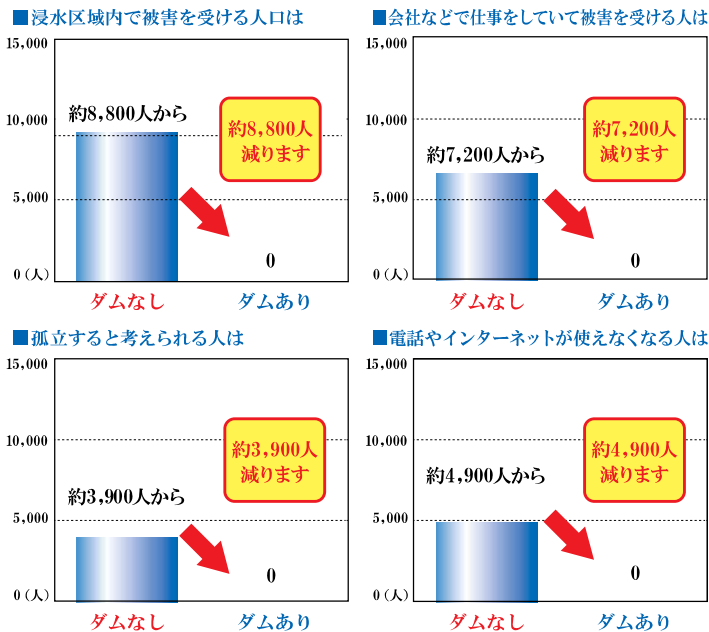


河川整備計画の河道整備流量配分図（単位： m^3/s ）



洪水調節効果（高城橋上流地点）

洪水による被害を受ける人はこんなに減ります！



昭和57年の出水



平成31年の出水

② 流水の正常な機能の維持

渇水時の良好な河川環境の維持と、ダム下流の既得農業用水が安定的に取水できるよう、本明川の流量を確保します。（※公園堰（直下流）地点で概ね $0.25\text{m}^3/\text{s}$ の流量を確保）



流量 $0.04\text{m}^3/\text{s}$ 時（瀬切れ）



流水の正常な機能の維持効果（公園堰下流）



流量 $0.25\text{m}^3/\text{s}$ 時（水補給後）

本明川ダムの大きさは、 高さ約60.0m、 長さ約340mのダムです。

■本明川ダムの大きさや、貯めることができる水の量



※表現されている水位は、平常時最高水位です。
※平成29年3月の計画をもとに作成されたイメージであり、今後変更となる場合があります。

建設予定地：長崎県諫早市富川町（左岸側）
長崎県諫早市上大渡野町（右岸側）

ダムの型式：台形 CSG ダム

総貯水容量：約 620 万 m^3

※ダムに貯めることができる水の量



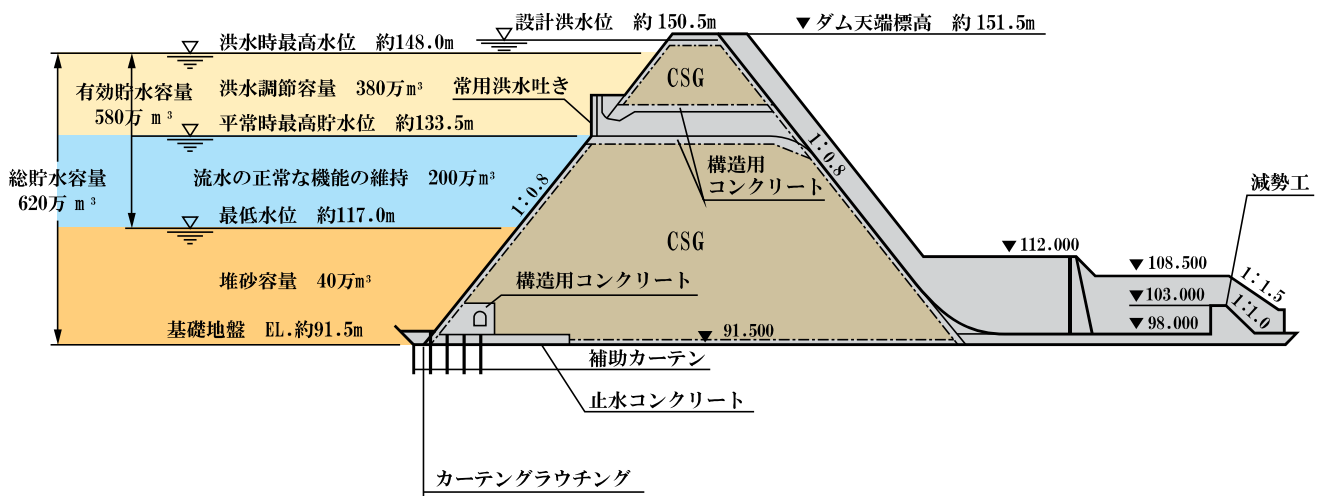
貯めることができる
水の量は、トランス
コスモススタジアム
長崎の約10杯分

堤 高：約 60.0m

※ダムの高さ

堤 頂 長：約 340m

※ダムの長さ



本明川ダムは「台形CSGダム」という新しい工法で計画されています。

台形CSGダムとは、セメント(C)と現地で発生する砂(S)や礫(G)、水を加え練り混ぜた材料を用いることで、通常のコンクリートと比べて材料の使用範囲が広く、製造工程も簡素化することができます。台形にすることで、安定性が増します。

水没地域のご協力により、 下流の安全と安心、 水の利用が保たれます。

■本明川ダムと本明川流域



本明川ダムができることで、
安全で安定した水の利用が
できるようになる市街地部や下流部

水没地域のみなさんのご協力を
忘れないようにしましょう。